

妻へ

フジオネーム…のんた

サスケは僕は飼われて幸せでしたか？ あらためて手紙を書いてみると、何を書いていいかわからなくなります。昔うちで飼っていたラブドールトリバーのサスケは、その当時幼かった僕にはよく事情がわかっていなかったけど、救助犬の適性がなくて失格になってしまった子だったことを後から知った。後一步で殺処分になってしまつところを僕の母が引き取ってきた。確かに未来の救助犬にしてはとても人懐っこくて甘えん坊だったのかも、その他にも水難事故などで活躍する犬種だったはずのサスケは、水がとっても苦手でお皿に水を入れるためにホースやジョウロを持つだけでも怖がっていたので、そんなこともあって警察犬にはなれなかったんだろうね。でも僕はそんなサスケが可愛くて可愛くていつもそばにいました。小さな時から一緒だったサスケは弟みたいな存在で、一緒に寝たり、散歩したり、取っ組み合いでじゃれあったりと、友であり家族であつと、僕にとつてとても大切な存在でした。

家族から怒られたり、褒められたりすると露骨に申し訳ない顔をしたり、嬉しそうにしたりと本当に人みたいな子でした。水を近づけた時の眉間にシワをよせた顔といったら今思い出しても笑ってしまいます。サスケがこの世をさったのは僕が中学生の時、外泊をしながら家に帰ると、家族に看取られたサスケの姿がありました。最後までご飯をよく食べ、力強く歩いていたのでその当時はしばらく受け入れることができませんでした。

今思うと「もっと遊んであげればよかった」とか「側にいてあげればよかった」とか、そんな後悔ばかりしてしまいます。

僕はサスケに出会えたおかげで幸せな幼少期をおくれました。今でもサスケのことが大好きでラブラドルレトリバーを見かけるたびに暗いピンクの鼻に少し困り顔のサスケの姿を重ねてしまいます。できることならもう一度サスケに会いたい、たくさん撫でてあげたい。

今は叶わないけれど、僕が天国に行ったら、また沢山遊ぼうね。それまでもう少しかかるけど、まっけていてね。

リクエスト曲

（ ） しオ ／ 優里 （ ）